

至高の夏。

高校野球大特集

12強のチーム、40人の主役候補、82校の男女球児。

7月5日、僕らの夏物語が始まる。 —スタンダード新潟編集部





Player Data
左投左打 168cm / 60kg
3年 ④岩室中

東京学館新潟 朝妻 渚斗

左腕エースがケガから復帰した。春季県大会準々決勝の日本文理戦は、7回途中まで6安打2失点の好投を見せた。直球の最速は130キロほどだが、多彩な変化球とのコンビネーションを抜群の制球力で操る。チームは昨夏、継投で勝ち上がって初の甲子園出場を決めた。その再現のため投手陣の柱になる。



新発田中央 小林 香佑

春は公式戦初登板の佐渡総合戦で5者連続を含む8奪三振。続く巻戦は4回無失点、関根学園戦は6失点だったが、3試合先発を経験したのは収穫。テンポの良さや制球力を磨き、夏は左腕大矢との両輪でチームをけん引する。

Player Data
右投左打 171cm / 67kg
2年 ④聖籠中

上越 井上 珠希

背番号10を着けた春は先発の柱として登板。春季県大会4回戦は新発田南から5回で8個の三振を奪った。準々決勝の関根学園戦は5回2失点と互角の展開に持ち込んだ。夏のシードは6年ぶり。右腕が上位進出のカギを握る。

Player Data
右投右打 172cm / 66kg
2年 ④城東中



関根学園 佐伯 大和

春季県大会は鈴木の後の2番手で2試合3回を無失点。新発田中央戦では先発して7回2失点と、先発、抑えのどちらもこなす。強気な鈴木とは対照的に冷静に淡々と投げ抜く。安定感抜群の右腕が夏の進撃の土台になる。

Player Data
右投右打 183cm / 80kg
3年 ④興南中 (富山)



系魚川 山岸 宥稀

Player Data
右投左打 178cm / 68kg
2年 ④系魚川中

エースで中軸を打つ投打の要。春季県大会は打撃では3試合連続安打。投手では4回戦の東京学館新潟戦こそ9安打9失点(自責点4)も、初戦の高田商・新井・海洋戦は7回11奪三振。球威のある直球は打者の脅威になる。

加茂晩星 真保 龍聖

手で伸びる直球に、精度抜群の変化球を持つ本格派右腕。今春から解禁された2段モーションを取り入れた新フォームによって、直球の威力が増し、最速は130キロ台後半まで伸びた。2年生だった昨春から頭角を現し、最終学年になった今年は揺るがない大黒柱。経験も強みにしてチームをけん引する。



Player Data
右投右打 177cm / 78kg
3年 ④大崎学園



(左)清水のゲームコントロールが高校3冠の鍵を握る。(下)インサイドで力強いプレーを見せた千保



1年の高橋。歩路と書いて「ある」と読む。秋田出身でU16日本代表

個性豊かな選手がそろったタレント集団。日本一を目指し幸先の良いスタートを切った

開志国際が県3連覇！ 全国3冠に向けて視界良好

6月2日に行われた県高校総体バスケットボール競技男子決勝。多彩なタレントを擁する開志国際が、準決勝で佐渡を121-57、決勝では帝京長岡を88-44で下し、目標の高校3冠に向けて圧倒的な強さでスタートを切った。

撮影文●わたなへまやひ(Office Serendipity)

「今年から主力の平良も最上級生になった。」「ディフェンスからの速攻。やってきたことが試合で出せた。これまでは先輩方に頼っていた。今年は清水がチームキャプテン。自分はゲームキャプテンとして、プレーでみんなを引っ張っていききたい。昨年1年間は悔しい思いをしてきた。インターハイでは自分は1度も優勝できていない。3冠の中の最初の1冠をしっかりと取りにいきたい」。リーダーとしての自覚をみなぎらせる。

今大会で富樫監督は「高橋が大舞台でどこまでやれるか」と注目していたという。「物怖じしない。将来が楽しみ」と指揮官は笑顔で評価した。

「今年のチームは身長がダウンした分、リバウンドやフィジカルで負けてしまう部分がある。自分たちの速いバスケットを出していきたい。昨年から出ているメンバーが多く、しっかりと守り、リバウンドを取り、速い展開につなげるのが開志国際の色。スリーポイントも増えた。速いだけでなく、正確性も求められる。しっかりと練習して本番に臨みたい」。清水。帝京長岡をダブルスコアで下しての県3連覇。1冠目となる8月のインターハイ(福岡市)に向けて、開志国際が弾みをつけた。

「県総体の代表を決める試合は、どの大会よりも胃がキリキリする。子どもたちが緊張感に負けずに力を発揮してくれたい」。開志国際の富樫英樹監督は試合後、開口一番に選手をねぎらった。

「高校3冠」(インターハイ、ウィンターカップ、U18清食品トップリーグ)を目標に挑んだ昨年は、優勝できたのはトップリーグのみ。その悔しさをバネに新チームになってから再び同じ目標を掲げて鍛錬を積んできた。ポイントガードでスピードスターでもある清水脩真がけがから復帰。今大会はほぼベストメンバードで臨んだ。決勝のスタメンは清水、平良宗龍のダブルキャプテンに加え、千保銀河、ケルビンの3年生4人と、期待の1年生高橋歩路。「今年はどこからでも得点できる。裏切らないのはディフェンスとリバウンド。昨年とはレベルが違う」と、自信をのぞかせた指揮官。その言葉通り、帝京長岡との決勝でもチームはスタートから激しいプレスディフェンスとリバウンドで相手を圧倒した。

「ポイントガードとして、キャプテンとして、自分がディフェンスから引っ張って

ゲームキャプテンとして試合をリードした平良

6/2日 [上越市]		リージュンプラザ上越		
開志国際	28 - 9	44	帝京長岡	
	88			22 - 12
	24 - 11			
	14 - 12			

優秀賞・審査員賞 創作コンクール部門



優秀賞

新潟明訓

Butterfly effect ~ちっぽけな僕らの羽ばたき~



優秀賞

新潟中央

パラドックスー常識は私を錯覚させるー



審査員賞

村上中等

無気力 フェルマータ



審査員賞

新潟清心女子

Faceless

第77回 新潟県高校総合体育大会 ダンスコンクール

及び発表会 兼 第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)予選会

撮影◎嶋田健一(スタジオ嶋田)

2024.6.1 長岡市立劇場

高校生の「今」を表現した 新潟南が2017年以来の最優秀賞

「ずっとずっと、昨年の大会から最優秀賞を目指してきたので、取ることができて本当に良かったです」と、先頭に立ってチームをまとめてきた3年の石橋未来部長。7大会ぶりの頂点をつかんだ喜びに、新潟南のダンス部員たちにうれし涙があふれた。作品の題名は「小説「砂の女より」〜安部公房が伝えたかったメッセージ〜」。自由の中にも自由がある、自由の中にも不自由がある。その中でも私はこういうふうに見えるという強い意志を作品に込められた(石橋部長)。60年以上も前に書かれた世界的な評価を得ている日本人作家の小説を題材に、現代の高校生の誰もが抱える、揺れ動く心情を男女26人のチームで表現した。「完成度としてはまだまだ。もう少し独創的な発想の動きも入れて全国大会に挑みたい」と意気込む、新潟南ダンス部を教える部活指導員の舟山弘美さん。

新潟南は県代表として、8月6〜9日に開かれる「全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」に新潟清心女子などと共に出場する。「全国1位を取ります」。石橋部長が目を見守った。



テーマは昨年から温めてきた。「不確かな自分という今の高校生が置かれた状況」(石橋部長)を巧みに小説に重ね合わせた

創作コンクール部門

最優秀賞

新潟南

小説「砂の女より」
〜安部公房が伝えたかった
メッセージ〜

